

雲ヶ畑の松上げ鑑賞

出谷町の今年の文字は？

平成27年8月24日（月）は、雲ヶ畑の伝統行事松上げを鑑賞させていただきました。当日は天候にも恵まれ、風も穏やかで絶好の松上げ条件が揃いました。

松上げ鑑賞の前に、雲ヶ畑の松上げについて地元の安井昭夫さんからお話しをして頂いて、久保清美さんの美味しい手作りのお食事に箸を進めて腹ごしらえです。

<お膳に並んだ食事>



<安井昭夫さんからお話し>



松上げの準備から点火までは、元々地元の長男で16歳から35歳までの若中と呼ばれる若者が取り仕切る事になっていましたが、出谷町のその若中も今では3人となり、うち2人は京都を離れて暮らしておられます。

伝統を守るため、郷里を離れている2人も駆けつけて、雲ヶ畑で活動する“杉良太郎”の若者も協力して今年も夜空に松明が描く文字が浮かび上がります。

午後8時、点火時間となりました。雲ヶ畑の愛宕山の山腹に小さな火が揺れはじめました。「今年の文字は何だろう？」と松明の文字が起き上がるのを皆さん心まちにされています。

<まだ文字はわかりません>

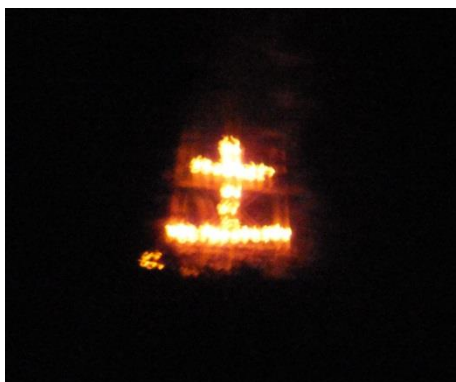
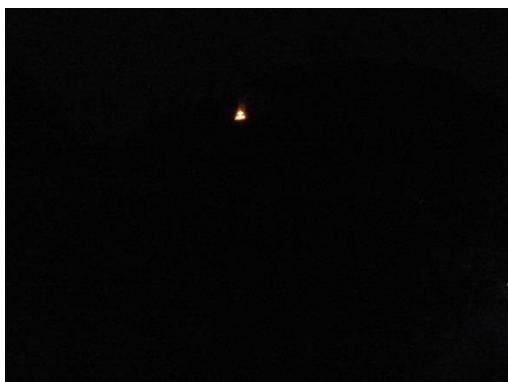


そうなんです。雲ヶ畑の松上げの文字は点火まで若中のメンバーしか知りません。例え親兄弟でもその文字は知らされていないのです。

いよいよその文字が姿を現しました。燃えさかる炎は「**土**」の字を浮かび上がらせました。鑑賞する皆さんから拍手が起こると共に「今年の夏も終わったな」とぼつりつつぶやく声も聞こえます。

<何でしょう>

<**土**でした>



ほどなくして、山の方から「おーい、おーい」と大きな声が聞こえてきました。松明をかざした若者が走って山を下りてきました。次々と山を下った若者の松明がほどこかれ、火が重なっていきます。

<「おーい、おーい」>



<火床を組んで 小さな炎>



<続々と松明が帰ってきます>



<熱さもはねのけて>



護摩木を焚く火床が大きく炎をあげて燃えさかります。福蔵院のご住職の般若心経が唱えられる頃には、辺りを照らし出す程の大きな炎となりました。

<火花を散らして燃え上がる炎>

<辺りを照らす炎>



そして最後の松明が帰ってきました。ここで若中が取り出したのは、大きなスルメです。このスルメを松明の刺して、大きな炎にかざして炙ります。そしてサキイカとなったスルメが鑑賞の皆さんに振る舞われました。スルメの味を噛みしめながら、夏の終わりを感ずるのでした。

<最後の松明到着>



<焦がさないように気を付けて>



<スルメ炙りがはじまりました>



<皆さんお一つどうぞ>



雲ヶ畑の松上げは、出谷町と中畑町の2箇所で開催されます。私は今回出谷町の松上げを鑑賞させて頂いてレポートしました。中畑町の今年の文字は何だったのかな？そちらは佳美さんにお任せするとして、間近に見た若中の勇壮な姿を思い出しながらレポートを終えます。

<祈りの炎を御覧あれ>



【追伸】

雲ヶ畑の松上げを鑑賞したのは初めてで、ただ夜空に文字が浮かぶだけかと思っていました。ところが、若中が山を駆け下り帰ってくると、地元の方をはじめ鑑賞されている方からの拍手とねぎらいの言葉が贈られます。

「一体感」ここに地元で根付く伝統行事の意味を深く感じました。